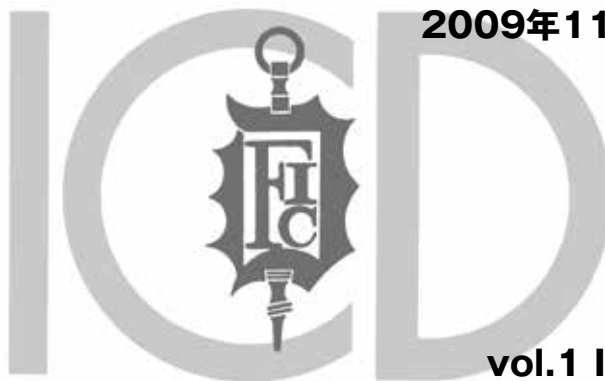


2009年11月13日

The Newsletter of International College of Dentists JAPAN Section



vol.1 Issue 1

ニュースレター発刊によせて

国際歯科学士会（ICD）は、1930年、10項目にわたる崇高な目的（綱領）を掲げて米国で設立されました。ICD日本部会 は、戦後の1957年に設立が承認されて、1 昨年（2007年）には創立50周年の記念事業が盛大に執り行われました。

設立50年目を迎え、本会の更なる発展と飛翔を求めてICD日本部会では将来構想委員会や改革委員会の提言を受けて数々の新しい企画が執行されております。

日本部会の重要な課題として、会員（フェロー）数の停滞問題があり、この問題の解消には会員相互間の情報の伝達と連携が必須の事項であるとされました。このため日本部会の組織改革が進められ、従来の「長期計画委員会」を「会員支援委員会」と改組して会員相互の連携

と新入会員のフォローをお願い致しました。

会員支援委員会では地方にあって情報の少ないフェローとの連携を進める地方懇談会の開催、新入会員の認証式におけるフォロー（加入者へのガイド）などを行っておりますが、この度、300有余人の日本部会のフェロー全員に、容易に情報を伝達する方策として「ニュースレター」が企画されて発刊の運びとなりました。

発刊されるニュースレターが、これまでフェロー各位に送付されている機関紙、ホームページに加えて、ICD日本部会の動きとフェローの情報交換の場として有機的に活用され、フェロー相互の連携意識の高揚に役立つ事を祈念いたし発刊の挨拶といたします。

ICD 日本部会 会長 齋藤 毅

ICDJSの未来を見据えて

事業運営委員会（事運委）はICD 3大事業である「総会・認証式」と「年末集会」「冬期学会」を所管しております。

現在、ICDJSは会員数が減少傾向にあり、これ等に歯止めをかけるには何をなすべきかが問われております。事運委では、総会・認証式は厳粛で品格ある大会、年末集会是明るくて楽しい集会、冬期学会は他の専門学会を超えてICDJSらしい学会と位置付けて、それを目指しておりますが、会員数の減少は財源にも響き、予算は削減され、事業の運営にも影響が及んでいます。「言うは易

く行は難し」の格言とおり、理想と現実が一致していないのが現状です。

今日までの私達は、ICDブランドの上にあぐらをかいていた結果、組織としてのアイデンティティーの確立が不十分だったかもしれません。私達自身もICDJSへの情熱が希薄だったかも知れません。そして意識改革を怠っていたかも知れません。

ICDJSの未来は、若い世代の若い発想による「奉仕の精神」に基づいた改革と協力が必要不可欠です。

事業運営委員会 常任理事 永海 弘和

年末
集会

日時 2009年12月5日（土） 14:00～19:00
場所 東京 帝国ホテル 東京都千代田区内幸町1-1-1
会費 フェローご本人…………… ¥25,000
 同伴者（1名につき）…………… ¥20,000
特別講演『おしゃれの品格』 山本 基代志
 アトラクション『箏曲の新しい世界』 榎戸 二幸

登録
しましたか？

2009 ICD International Council Meeting in Yokohama, Japan

2009年度のICD国際理事会は、2006年度の国際理事会において、ICD創設者の1人である奥村先生の母国・日本での開催案が打診され、3年間の開催準備を経て、5月22～23日に横浜で開催された。国際理事会の日本開催は、初めてのことであり、神奈川県在住のフェローには、会場選定から終了まで多大なるご尽力を賜りました。

理事会前夜の21日夜は、国際理事による懇親会、23日夜は日本部会による日本部会フェロー、国際理事、海外部会役員との交流が行われた。理事会では、2010年2月の国際本部の事務室移転に関する討議、中華人民共和国地区が十三番目の部会に、ミャンマー地区が十四番目の部会に昇格することが承認された。ミャンマー部会の昇格は、森山国際会長（当時）の尽力によるものであるが、日本部会は2011年までミャンマー部会を支援する後見部会の義務を果たすことになった。理事会終了後は、国際

会長はじめほとんど全ての国際理事から、齋藤会長はじめ日本部会に対して、理事会が成功裏に終了したお礼のメールを頂きました。

国際理事 佐藤 吉則



国際交流委員会

従来の「国際渉外委員会」は「国際交流委員会」と名前を変えました。これは齋藤会長の「国際交流を進める」という方針を受け、委員会の方向性をより分かり易くする為です。

5月に横浜で行われた国際理事会では委員会として積極的にお手伝いさせて頂きました。日本部会会長招宴では、受付け、進行を担当致しました。併せてICD日本部会の認証式に来日された韓国、台湾、ミャンマーのフェローと、本委員会のメンバーが交流する会を「アジア部会交流会」と称して開催致しました。韓国から3名、台湾から2名、ミャンマーから3名、日本からは8名と16名が出席しました。初めての試みということもあり各部会の紹介が主でしたが、お互いに良い刺激を受ける会となりました。また恒例の留学生招待は神奈川県歯科大学、鶴見大学歯学部より各2名（チリ、韓国）が参加されました。懇親会では自己紹介および齋藤会長より参加証の授与が行なわれました。その後、国際会長のDr.Richard A.Shickより激励のお言葉をいただきました。

アジア部会交流会については来年度大阪での総会の際に再び開催する事を考えています。

国際交流委員会 常任理事 橋本 光二



改革推進委員会

長年の懸案であったICD日本部会法人化のために、現行定款を見直し、司法書士のお力も借り、平成21年度総会にて承認されました。

法人の種類としては一般社団法人であります。大変厳しいわが国の歯科界の中にあつて、そのオピニオンリーダーとして世にも申す組織であるためには、法人格の取得は必要であったものと思います。

法人化することで内部のみならず、外に向けての事業も行なわなければならないのではないかと、申告・納税といった事務業務も必要になるといったことで、不安に思われるフェローもございましたが、一般社団法人であれば事業等について特別な縛りもなく、雛形に則した定款を添え届け出をすることで一般社団法人国際歯科学士会日本部会が設立できるわけです。

改革推進委員会としては、本会を法人化させた後、執行部の意向をお聞きし、必要な諸規則等を作成していく準備をいたしております。

今後とも、フェロー各位のご協力をよろしくお願いいたします。

改革推進委員会 常任理事 富田 篤

広報・編集委員会

広報・編集委員会では「雑誌」の発行と「ホームページ」の制作を致しております。雑誌は7月に発行いたしました。「日本部会雑誌」始まって以来はじめて雑誌に広告の掲載を致しました。本雑誌にふさわしい広告がありましたら、お知らせ頂ければ幸いです。

またこの広告はホームページでもリンクさせていただいております。日本部会の歴史を記録として残すためにふさわしい内容であるように、また学術誌としての品格を維持していくために委員会は鋭意努力をいたしております。

一方、ホームページはフェローの皆様へのいち早い慶弔のお知らせ、三大事業の日程や終了時の報告、委員会や各部会の活動状況、フェローの皆様の郷土のご紹介、刊行物の更新、電子版ニュースレターの配信などあらゆる方向から写真などをまじえて見やすく、読みやすいものを目指して作成致しております。皆様のご協力なくして広報・編集委員会は成り立ちません。今後ともよろしくお願い致します。

広報・編集委員会 常任理事 隅田百登子

総会・認証式

2009年度 総会・認証式、国際理事会を2009年5月21、22、23日の3日間パシフィコ横浜で開催しました。

5月23日(土)総会にてICD日本部会の法人化、定款の改定が上程され可決されました。

認証式では8名の新フェローが認証され厳かに滞りなく式が行われました。また、国際理事会では中国およびミャンマーが支部への昇格が認められました。

2010年度は、総会・認証式は大阪で開催する予定です。

開催地：大阪「リーガロイヤルホテル」

日 程：2010年5月29日(土)

会員皆様のご出席宜しくお願い致します。

事業運営委員会 総会・認証式担当
作間 敏信

冬期学会

第39回冬期学会が2009年2月15日(日)東京歯科大学「血脇記念ホール」で開催されました。

今回の冬期学会は「ICDJSの飛翔を考える」をテーマとして、まず齋藤毅会長の基調講演「ICDJSのこれから、日本部会のあり方・方向性について」を皮切りに小林義典副会長から「ICDJSの将来展望」、森山徳長前国際会長から「海外各国のICDの現状、主に国際的な活動について」を講演して頂き、さらに「ICDJSの事業の方向性について」ICDJS改革5ヵ年計画委員会 榎本洋史委員長、財務委員会 根岸達郎委員長、改革推進委員会 榎本一彦委員長からプレゼンテーションをして頂きました。

シンポジウムでの討論に続き在日米空軍横田基地のグリム大佐、チェンバレン中佐の特別講演が行われましたが、今回はICDJSの現状への理解、日本部会のあり方、国際交流をキーワードに企画しました。

今後もICDJSの現状や方向性を考えながら、新しい時代に対応した学会にしたいと考えています。

事業運営委員会 冬期学会担当
飯島 裕之



〈新フェロー推薦のお願い〉

2010年度 新フェローをご推薦くださいますようお願い申し上げます。

書類は事務局までご請求ください。締切りは12月末日です。

〈年末集会 二次会へど〜ぞ!〉

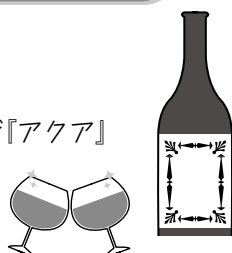
平成21年12月5日(土)

年末集会懇親会終了直後スタート

帝国ホテル本館17階 インペリアル・ラウンジ『アクア』

5,000円 飲み放題

(会費は当日二次会会場でお支払い下さい)



《三大事業予定》

年末集会

2009年12月5日(土)

帝国ホテル(東京)

冬期学会

2010年2月14日(日)

血脇記念ホール(東京)

総会・認証式

2010年5月29日(土)

リーガロイヤルホテル(大阪)

関西支部学術講演会開催報告

平成21年10月3日(土) 16:00～18:30 大阪歯科大学天満橋学舎において、ICD日本部会としては初めての支部学術講演会を開催した。かねてより、日本部会においては会員の連携と増強を目的に支部の設立が望まれていたが、日本部会元会長小室甲先生のお声かけで、国内では初めて関西支部が設立された。そして設立後初めての事業として学術講演会を開催することとなり、大阪歯科大学歯科麻酔学講座准教授・附属病院医療安全室室長佐久間泰司先生と日本歯科医師連盟常務理事・東京都杉並区歯科医師会会長高橋英登先生を講師に招聘した。

佐久間先生には「医療安全管理のお話と患者との口の利き方練習」の演題で、円滑な歯科医療を遂行するためには医療側と患者側がともに満足する解決法として「協働」の重要性について強調され、寸劇を交えて「コミュニケーション能力の向上」のための要点を挙げられた。続いて、高橋先生は「これからの歯科医療を考える一患者さんから高評価をうける歯科医院作りを目指して」の演題で、歯科医療の現状について正確に分析され、歯科医療の取り巻く環境の悪化やそれに伴う歯科医療人のモチベーションの低下がある昨今、前向きに自信と尊厳をもって日々の診療に取り組めるような、明日からすぐに実践できる診療内容について興味深く講演された。特に事前打ち合わせはしていなかったが、2人の講演は流

れるようにスムーズに継続し、予定していた2時間30分の講演時間はあっという間に過ぎてしまった。事前の広報が少なかったこともあり、当日の参加者数が心配されたが、関西支部の会員をはじめ、会員外の歯科医師や歯科医院のスタッフなど40名の参加者が集った。講演終了後、懇談会を開催したが、関西支部役員の先生方からは「今日の講演はとても勉強になった。もっともっと多くの医療関係者に拝聴してほしい。次もまたお2人の講師をぜひ招聘してほしい」と講演会に対する満足と期待の声があちこちで聞かれた。不安と期待のなか初めての支部講演会であったが、会員だけでなく広く歯科医療関係者に対して、有益な講演会を開催する事業も「国際歯科学士会」としての大きなミッションであると感じた。

関西支部支部長 末瀬 一彦



探訪 小豆島農村歌舞伎

“いよっ！ひのいで！！” 大向うのかけ声の飛ぶ中、舞台では「青砥稿花紅彩画 雪の下浜松屋の場」が演じられている。「知らざあ言って聞かせやしょう…」の名台詞 弁天小僧菊之助が娘姿から男に変わるこの大役を



演じているのは、小豆島の菊五郎ことICD日本部会同志 樋出 誠フェローである。

ここは四国の小豆島中山地区にある「春日神社」の境台にある「中山の舞台」である。この舞台は国の重要有形民俗文化財に指定されており、小豆島農村歌舞伎は県の無形民俗文化財に指定されているという。農村歌舞伎は秋の収穫を感謝し神社に奉納される為、毎年この10月に行なわれるとのこと。この農村歌舞伎の魅力にどっぷりはまって13年という樋出フェロー。話には聞いていたが、一度生の舞台を拝見ということで我ら有志8名でお邪魔する事になった。彼にとってこの弁天小僧ははまり役で、化粧をした娘姿は見事な女形、啖呵をきる時の声はしっかり男声！かなりの練習と準備期間を要するときいているが、「ウーン！！」と唸る程の舞台で、毎度の事ながらICDのフェローはなんと芸達者の人が多いことかと感じいったことである。

広報・編集委員会 理事 水谷 忠司

移動式・オープン委員会

我々、会員支援委員会は会員に対して、一人でも多く『新たな会員同志の接触・融和によって、ICDを意識し、再認識して頂きたい』これは委員会の基本的目的の一つでもあり、その方法も模索しています。

せっかく集まる「委員会」一つにしても、いつも同じ所でやっても脳がない、そこで、地方へ出かけてオープンとし、併せて小さな懇親会もおこない「少しでも会員のご意見を頂く」ことにしました。

そうした動きの第一弾として三重県伊勢崎市で行い三重県在住のフェロー5名全員参加頂きました(本年1月)。8月には京都において京都、滋賀在住の先生4名

の参加を頂き京都で開催しました。先生の地にもお邪魔するかもしれません。ヨロシク!!

会員支援委員会 理事 大金 誠

